

第 27 回 発電用設備規格委員会 材料専門委員会 議事録

1. 日 時: 2015 年 5 月 28 日(木) 13 時 30 分～16 時 00 分

2. 場 所: 日本機械学会 第 1 会議室

3. 出席者: 委員総数 19 名中、出席者 16 名(代理 1 名)、欠席者 3 名

高橋(電中研)、木村(NIMS)、山田(中電)、浅山(JAEA)、伊勢田(新日鐵住金)、木原(ベストマテリア)、
澤田(NIMS)、榎木(日鉄住金テクノロジ)、田中(日本製鋼所)、藤森(日立 GE)、朝田(三菱重工)、
齋藤(三菱重工)、安田(原安進)、高橋(東芝)、尾崎(東電)

代理人: 田中(IHI、久布白委員代理)

欠席者: 三枝(電中研)、村上(MHPS)、寺田(東工大)

オブザーバー: なし

事務局: 小沢

4. 配布資料

資料材 27-1	第 26 回材料専門委員会議事録(案)
資料材 27-2-1	材料専門委員会委員名簿
資料材 27-2-2	材料専門委員会委員出欠状況等
資料材 27-2-3	材料専門委員会新材料規格化分科会名簿
資料材 27-2-4	材料専門委員会材料規格統合化分科会名簿
資料材 27-2-5	材料専門委員会材料事象解説分科会名簿(案)
資料材 27-3	第 73 回発電用設備規格委員会議事録(案)
資料材 27-4	材料専門委員会 第 7 回新材料規格化分科会議事録(案)
資料材 27-5	材料専門委員会 第 1 回材料事象解説分科会議事録(案)
資料材 27-6	SN 材(JIS G 3136 建築構造用圧延鋼材)の許容値検討状況について
資料材 27-7	JSME 発電用設備規格 材料規格 2013 年追補 添付 1 新規材料採用ガイドラインにおける Su、Sy 値策定のための手順書案(内規)
資料材 27-8	材料専門委員会 課題対応一覧(Tracking List)

5. 議事内容

(1) 開会

開会時において出席者は委員総数 19 名の 2/3 以上(13 名以上)の 16 名であり、本委員会は成立することを確認し、高橋委員長が委員会開催を宣言した。出席者が自己紹介を行った。

(2) 議事次第確認

議事次第(案)と配布資料を確認した。

(3) 議事録(案)の確認 【材 27-1】

第 26 回材料専門委員会の議事録(案)の確認を行い、村上委員の所属を修正することと分科会名称「新材料規格化分科会」と訂正することで議事録案は承認された。

(4) 委員委嘱関係 【材 27-2-1、27-2-2、27-2-3、27-2-4、27-2-5】

尾崎委員、寺田委員の選任及び高橋委員長継続が規格委員会です承されたことが報告された。

材料専門委員会の出席状況等の確認を行い、出席率などの観点から特に問題のある委員がいないことを確認した。

材料事象解説分科会名簿案【材 27-2-5】(No.9 に安田 祐司氏(原子力安全推進協会 技術支援部)の追加、浅山主査(JAEA)／岡田副主査(新日鐵住金)の選任)が承認された。

(5)規格委員会報告【材 27-3】

高橋委員長より第 73 回発電用設備規格委員会議事録(案)の材料専門委員会関連部分が報告された。

(6)分科会報告

6-1 新材料規格化分科会報告【材 27-4】

第 7 回 新材料規格化分科会議事録(案)を用いて澤田委員より活動状況が報告された。

審議事項に記載の「“アッパーコンパチブル”という概念により、ユーザの判断で SM 材を SS 材として扱うこともある。」については「ユーザの判断で」を削除した方がよいと指摘されているとの説明がなされた。

6-2 材料事象解説分科会報告【材 27-5】

第 1 回 材料事象解説分科会議事録(案)を用いて浅山委員より分科会発足に関する報告がなされた。(浅山主査／岡田副主査の選任、分科会の進め方等)

6-3 材料規格統合化分科会報告

山田幹事より口頭にて活動状況が報告された。(第 26 回材料専門委員会での審議結果に従い活動を継続していく旨)

6. 審議事項

(1)SN 材の許容値検討【材 27-6】

澤田委員より「新規材料採用ガイドライン」及び「同ガイドラインにおける Su、Sy 値策定のための手順書案(内規)」に基づく分科会委員全員による解析結果から得られた以下の論点について議論を行った。

- ・室温 20℃、室温 25℃での解析結果に有意な差がないこと(ASME 規格では 70°F)
- ・Sy 値の解析では下降伏点を用いる方が材料特性をよく表していること
- ・下降伏点で解析すると材料の実力値が Sy 値を下回るケースがでてくること
- ・高温では降伏点が不明瞭となるため基準が不明確となること
- ・Su 値の解析では解析者による相違が小さいこと、特に問題点がないこと
- ・B 材と C 材の区別について

次回の材料専門委員会において分科会方針案を審議することとなった。

(2)Su、Sy 値策定のための手順書案(内規)【材 27-7】

澤田委員より説明がなされた。

内規については SN 材の許容値検討を通じて最終的な内規案を书面投票にかけることとした。

(3)材料専門委員会課題対応一覧(Tracking List)【材 27-8】

木村副委員長より説明がなされ以下のアクションを行うこととなった。

- ・RQ10-C2-001:デジタルデータ提供の手順

→本件は終了とする。

・材料事象解説分科会の検討課題が設定された時点でリストに追加する。

7. 次回開催予定

日 時:2015 年 8 月 31 日(月) 13:30-17:00 (予定)

場 所:日本機械学会第 1 会議室

委員会終了後懇親会を計画

以 上